

男性更年期障害になりやすい人は 「指」でわかる

順天堂大学教授 白澤卓二

1958年生まれ。順天堂大学大学院医学研究科・加齢制御医学講座教授。

専門は寿命制御遺伝子の分子遺伝学、アルツハイマー病の分子生物学、アスリートの遺伝子研究、アンチエイジングの第一人者として著書やテレビ出演も多数。

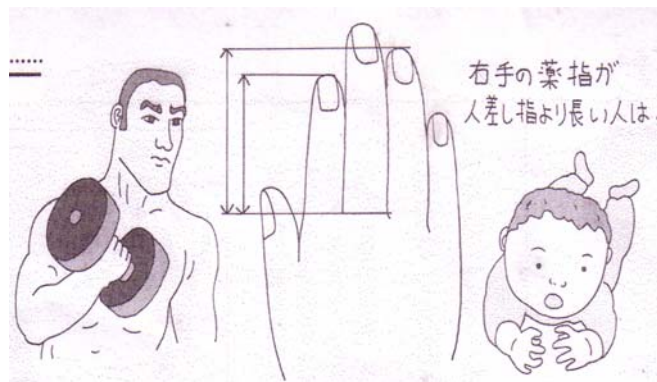
LOH症候群と呼ばれる疾患が男性更年期障害として最近、話題になっている。LOH症候群とは加齢男性性腺機能低下症候群の略で、やる気がない、気分がふさぐなどの心理的症状から、だるさが抜けない、筋力が衰えたなどの身体症状、さらには性欲の低下、勃起力の低下などの性的症状まで出現するものである。

加齢に伴った男性ホルモン(テストステロン)を補充することで症状が劇的に改善することがわかってきた。男性らしさを作り出すテストステロンは、胎児の外陰部を男性化する働きがあり、最近では胎児の脳の男性化にも関係していることがわかってきた。

英国リバプール大学のジョン・マニング博士は胎児期に受けたテストステロンの量が多いほど薬指が長くなる(男性型)ことから、右手の人差し指との比(人差し指の長さ÷薬指の長さ)をはかることにより胎児期のテストステロンを予測できることを発見した。

イギリスの株式トレーダーを調査すると、指がより男性的であればあるほど、危険を顧みず大きく投資する傾向にあり、年収も女性型の指のトレーダーと比較すると10倍高いことがわかった。

人指し指と薬指の比が1に近い女性型の男性は男性更年期障害を発症しやすいといえる。人差し指と薬指の比を測ることによりLOH症候群のリスクを予測できそうだ。



男性型

男性ホルモン(テストステロン)が多い

LOH症候群の主な症状

- ・早朝勃起の減少や勃起不全(ED)・・・生殖器への影響
- ・イライラ、不安感、憂うつ、性交欲の減少・・・脳への影響
- ・不眠、疲労感、無気力感が続く・・・脳への影響
- ・ひどい発汗・・・皮膚・脳への影響
- ・筋肉量の減少・・・筋肉への影響
- ・骨量の減少・・・骨への影響
- ・ヒゲの伸びが遅くなる・・・体毛への影響

LOH症候群はうつ病と診断されることも多くあった病状ですが、テストステロンの減少をその原因とするという点でうつ病とは区別されます。ただし、LOH症候群が進行することによってうつ病を発症したり、うつ病の発症によりLOHが低下するという場合もあります。

どちらの場合であっても、テストステロンが減少しているという事実に対し、また、この事実が引き起こした諸症状に対し、治療の対象として十分に考慮されることとなり得ます。